

（１）大学・学科の設置理念

①大学

安田女子大学の母体である安田学園は、「柔しく剛く（やさしくつよく）」を学園訓としている。「柔しく」とは、心遣い、気配り、思いやりといった人間としての品格、また「剛く」とは、意志、理性に加えて知識、技術等、自分を支える力を意味する。この学園訓は建学の精神を示すものであり、「人格の完成を目指して、学術や技能を磨き、徳性を身に付け、いかなる境遇にあっても女性らしい柔しさと、剛い意志を持って、社会に貢献できる心身ともに健全な教養ある女性を養成すること」（創立者・安田リヨウ）を教育理念とする。本学園は、大正4（1915）年に創設された広島技芸女学校に始まる。以来109年間、一貫した教育方針により、堅実な人間の養成に力を注ぎ、現在は幼稚園から小学校・中学校・高等学校・短期大学・大学・大学院までを擁する総合学園となっている。安田女子大学は文学部（日本文学科、書道学科、英語英米文学科）、教育学部（児童教育学科）、心理学部（現代心理学科、ビジネス心理学科）、現代ビジネス学部（現代ビジネス学科、国際観光ビジネス学科、公共経営学科）、家政学部（生活デザイン学科、管理栄養学科、造形デザイン学科）、薬学部（薬学科）、看護学部（看護学科）の7学部14学科、及び大学院は文学研究科、家政学研究科、薬学研究科、看護学研究科で構成されている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

今日、子どもを巡る環境には少子化や児童虐待、子どもの貧困等の多くの課題があり、その課題は多岐に拡大する傾向すらある。例えば、令和3（2021）年4月に子ども・若者育成支援推進本部で決定された子供・若者育成支援推進大綱では、社会全体の状況としては、こどもの自殺などの生命・安全の危機、孤独・孤立の顕在化、ウェルビーイングの低さ、格差拡大への懸念、SDGsの推進、多様性と包摂性ある社会の形成、リアルな体験と教育DXの両面展開、成年年齢の引下げ等への円滑な対応などが指摘されている。保育者は、これらの課題の解決に向けて子どもと子育て家庭に寄り添っているが、その資質はより高く専門性を深めることが求められている。保育者への負担と期待の大きさから、離職率は高く、人員不足は深刻である。

必然的に保育者養成の質的向上が求められ、保育者養成機関の今後一層の専門性が問われることは不可避であろう。今後の社会を支えていくためには、保育者を希望する人材を受け入れ、専門的・実践的力量を有するとともに、長く生涯にわたって幼児教育に携わることのできる「学び続ける」保育者を育成する必要がある。

教育学部幼児教育学科の前身は、昭和30（1955）年4月に開学した安田女子短期大学保育科と昭和50（1975）年4月に文学部児童教育学科としてスタートした教育学部児童教育学科である。保育科は、令和5（2023）年3月現在、約9,700名が卒業し、そのほとんどが幼稚園教諭や保育士といった保育職に従事し、児童教育学科は、一貫して小学校教員並びに幼稚園教員を送り出し、令和5（2023）年3月現在、約5,300名が卒業し、そのうち約95%が小学校教諭一種免許状・幼稚園教諭一種免許状を取得し、約60%が保育士資格を取得している。

双方の学科では、幼稚園教諭及び保育士についても広島県内の市町を始め、近隣県の市町の公立幼稚園に多数が正規採用されており、また、私立幼稚園への採用者も多く、教職への高い就業率を維持している。特に公立幼稚園教諭・保育所保育士採用試験の実績は高く、2学科を合わせて約1,900名（令和5（2023）年3月まで）が合格をしている。

先述した保育者養成が直面する課題の解決に向け、2学科の保育者養成の実績を生かし、今後、幼児教育の教員養成の一層の充実を目指して、教職専門性と豊かな人間性、さらには実践的指導力

を持った保育者の養成を果たす専門機関として教育学部幼児教育学科をスタートさせる。

幼児教育学科の目的は、本学の建学の精神「柔しく剛く」及び教育学部の目的である「教育に関する諸学の知識・技能・態度を広く深く学び、教育者として文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養や豊かな人間性、高い倫理観、使命感を持って職務を遂行することができる能力を修得させる」に沿って立てられている。つまり、本学科の目的は、幼児教育・保育の基本的な領域に加え、乳幼児の発達・成長メカニズムや発達特性に応じた効果的な教育環境の構成・評価のあり方などを学び、子どもとの相互の関わり合いを通して、理論と実践を往還させながら実践的指導力を修得させることである。

そのために教育課程としては、専門教育科目の充実を図り、教育学・保育学・心理学の各領域について教職の専門性を高めるとともに、1年次からキャリア教育を体系的にすすめる、保育職への意欲を高めるとともに、専門的知識・技能の習得をはかる。また、教育実習・保育実習の充実及びボランティア活動等による保育職体験を加えることにより、子ども理解と実践の理解を進め、実践的指導力の育成を図るとともに、幼児教育に関わる専門的研究へ取り組む能力の育成を図る。

幼児教育の専門性の向上という点で、基礎的な教養の上に専門性と実践力を備えた保育者養成をすすめる、教育界に優れた人材を送り出す。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

<建学の精神に基づく教員養成の目標>

本学の教員養成の目標は、学園訓である「柔しく剛く（やさしくつよく）」の理念に基づき設定され、高潔な人間性の涵養とともに、高い専門性を備えた教員養成を目指している。変化し続ける社会からの要請に対応しつつ普遍的な教育的価値観を実現するため、本学は 1) 柔軟な思考と豊かな人間性を身につけ、社会に貢献する確かな意志と信念をもった人材の育成、2) 教科に関する専門的学力、優れた教育技術や指導能力など教育専門職としての資質能力を有した教員の養成を大きな柱としている。具体的には以下のような資質を備えた教員の育成を目標としている。

- 1) 教育者としての使命感と教育的愛情をもった教員
- 2) 豊かな人間性と社会的良識をもった教員
- 3) 広く豊かな教養と確かな専門的知識・技能と実践的指導力をもった教員
- 4) 学園訓「柔しく剛く」の理念に基づく柔軟な思考と確かな信念をもった教員
- 5) 現代の教育課題を見極め、主体的に学び続ける研究意欲をもった教員
- 6) 同僚教職員、保護者、地域の人々と連携・協力できる社会的実践力やコミュニケーション力を備えた教員

<目標達成のための計画>

上記の理念を実現するために、本学の教職課程・教職教育においては、以下のような計画を立てている。

1) 大学生活を通じての豊かな体験を通じての全人的教育

人のために奉仕する精神を育てることを目指し、自ら教師としての指導力・実践力を育成することを励行させるために、大学における各種行事や体験的プログラムを拡充させ、それらへの積極的参加を促す。具体的には以下の活動群を通じて学生の資質を高めている。

ア. 学生の自主性を重視したオリエンテーションセミナーや学科ゼミ、学内外の文化・スポーツイベントの企画運営

イ. 我が国の文化理解を深める歴史的・文化的演習の取り組み

ウ、各種の海外留学プログラムにおける交流を通じての外国語能力・異文化理解に富んだ人材の育成

エ、クラスチューター制度による学生の指導・支援（授業外での人間教育の重視）

2) 実践的な指導力育成のための教育課程の改善

教員としての教科指導力を高めるため、教員養成課程の運用において教職センター、および教職課程をもつ各学科が協力し、全学的に絶えず運用面での改善を見直しをはかる。教職センターが中心となり、教員養成担当者間での情報共有を図るとともに、円滑な教育課程の運用を行うこととしている。また教員養成担当者のみならず、教科内容の指導にあたる教員とも緊密に協働することで、教員養成課程の理念を実質化する。

3) 教職センターによる教科・学校種を越えた教職協働・チーム学校に向けた行事の開催

本学教職センターにおいて、現代の学校が抱える諸問題について、教科や学校種を越えてともに学ぶ種々の講座、勉強会や講演会を開催する。それに加えて、それぞれの教職課程の専門性を高めてきた学生がともに集い、現在の学校で求められている教職員連携やチーム学校のあり方について、学内外の教授陣を交えて議論する場を定期的に設ける。

4) 教員としての資質を高めるための学校ボランティア活動の促進

教育の実践を学生に熟知させるため、広島市や廿日市市等における学校ボランティア制度（学校等支援活動）への積極的な参加を促すとともに、全学的な支援体制を構築する。学生の参加にあたっては丁寧な面接、事前指導を行うことで、学生の自覚を促すとともに、体験活動が始まった後でも継続的に大学として学生の支援・指導を行う。

これらの活動は計画・実施された後も常時見直しをかけることで改善を図るようにしている。本学の教員養成においては、1) 大学全体で教職学生を指導・支援する、2) 関係者が絶えず連携し愛情をもって学生に向き合うことを心がけている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

教育学部の教育目標は、建学の精神「柔しく剛く（やさしくつよく）」に基づき、自立した女性の確立を目指し、社会人としての教養と実践的指導力を備えた教員等の専門的職業人を養成することである。この目標に沿った教育学部幼児教育学科の教育目標は、「幼児教育・保育の基本的な領域に加え、乳幼児の発達・成長メカニズムや発達特性に応じた効果的な教育環境の構成・評価のあり方などを学び、子どもとの相互の関わり合いを通して、理論と実践を往還させながら実践的指導力を修得させる」ことである。この教育目標を達成するために、1) 「いつの時代にも求められる資質能力」、2) 「今後特に求められる資質能力」の二つの資質能力の育成に重点を置いている。この能力は平成9（1997）年「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」答申で言及されたものであるが、今日もなお教員養成の方向性を示唆している。

1) いつの時代にも求められる資質能力

「いつの時代にも求められる資質能力」とは、保育者としての使命感、人間の成長発達への深い理解、教育的愛情、専門的知識、広く豊かな教養、これらを基盤とした実践的指導力などである。この能力の育成のために幼児教育学科では、大学での共通教育科目の履修を基盤に、1年次より①専門性的知識・技術の基盤を築く幼児教育科目の充実、②理論と実践の往還的な学びの充実に取り組む。

①専門的知識・技術の基盤を築く幼児教育科目の充実

専門的知識・技術の向上を目指すために、1年次より前期には「運動遊びの基礎」「音楽表現の基礎」「造形表現の基礎」「身体表現の基礎」を、後期には「子どもと健康」「子どもと人間

関係」「子どもと言葉」を開設し、専門領域の基礎を習得できるようにすることで、2年次以降の効率的な学びと幼稚園実習での主体的な学びにつながるようにした。

②理論と実践との往還的な学びの充実

学内における講義・演習系の科目と学外における実習科目及び幼児教育に関する学外ボランティア体験を「幼児教育インターンシップⅠ・Ⅱ」として開設している。更に広島県内の教育委員会と連携した「学校等支援活動」での公立幼稚園などの年間を通したボランティア体験、2年次から3年次に設定されている幼稚園での教育実習を効果的に組み合わせることによって、理論と実践との往還的な学びを目指すものである。講義や演習による知識や技術の習得と、現実の幼児教育の現場での実践体験との間を継続的に行き来させることで、子どもの姿と学問的知識とが結びついた深い理解に導き、幼児教育の実践的能力や他職種との連携の学びにつなげていくものである。

2) 今後特に求められる資質能力

「今後特に求められる資質能力」とは、豊かな人間性や国際社会に必要な基本的資質能力、変化する時代を生きる社会人に求められる探求課題能力や人間関係能力、保育者の職務から必然的に求められる子どもや保育の在り方への適切な理解や保育職に対する愛着や誇りなどである。この能力育成のために、①海外での幼児教育現場などへの視察参観を含む海外語学研修、②幼児教育を巡る現代的諸課題に対応した授業内容の提供を計画している。

①海外での幼児教育現場などへの視察参観を含む海外語学研修

希望者は、「海外教育語学研修」及び事前準備学修である「海外教育語学研修事前演習」を履修することで、春休みの期間にカナダの西海岸にあるブリティッシュコロンビア州でホームステイをしながら、ヴィクトリア大学で約1ヵ月間の研修に参加する。研修中は、ヴィクトリア大学での授業に加え、小学校や幼稚園、保育所への訪問やワークショップを通して、カナダの教育システムを体験的に学ぶことができる。現地の子どもたちや教員・保育者と交流することで教育者・保育者としての視野を広げる。

②幼児教育を巡る現代的諸課題に対応した授業内容の提供

Society5.0の時代に対応したICTの活用、特別なニーズ教育（SNE）、SDGs、多様性の拡大など幼児教育を巡る現代的諸課題に対応するために、幼児教育・保育の発展領域として「赤ちゃん科学」「幼児教育実践科目」「サポートマネジメント」「ウェルビーイング」の4区分を設け、多様な科目を開設した。例えば、サポートマネジメントの区分には、近年問題が深刻化している保育場面での虐待防止や事故防止のための「保育におけるケアと倫理」「リスクマネジメント」「管理職・リーダー育成論」を開講する。更に、保育現場でのICT活用の知識と技術を向上させるために入学者全員に配付しているノートPCを活用して、「幼児教育学」といった必修科目の演習やレポート作成はもちろん、幼稚園教育実習における指導案の作成や実習日誌においてもPC活用を導入し、より実践的な課題を「保育とICT」という科目を通して習得していく。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

・幼児教育学科 幼稚園教諭一種免許課程

幼児教育学科の前身となる昭和30（1955）年4月に開講した安田女子短期大学保育科と昭和50（1975）年4月に文学部児童教育学科としてスタートした教育学部児童教育学科は、開設当初より幼稚園教諭養成を行ってきた。広島県内で最も早く幼稚園教諭養成に携わり、現在においても2学科とも幼児教育・保育現場に非常に多くの人材を送り出してきた。これらの伝統を引く継ぐ幼児教育学科は、子どもの成長・発達を支援する人材を輩出し、社会に貢献することができる。更に、前項

目で言及したように乳幼児をめぐる現代的諸課題は複雑化と拡大化をする一方、保育職の離職率の高さは深刻である。資質能力が高く、「学び続ける」保育者の養成への社会的ニーズに対応することが幼児教育学科に幼稚園教諭課程を設置する理由である。

幼児教育学科の教育課程は、幼児教育の基礎科目の学修を1年次からより早く開始することで、基礎的内容から応用・発展的内容まで体系的に学ぶことが可能になるように構成されている。さらに、現代的課題に対応するために、幼児教育・保育の発展領域として「赤ちゃん科学」「幼児教育実践科目」「サポートマネジメント」「ウェルビーイング」の4区分を設け、多様な科目を開設した。また、理論と実践との往還的な学びを実施するために1年次前期より教育学部に近接する安田幼稚園安東園舎での参与観察を通して「幼児教育インターンシップⅠ・Ⅱ」を履修し、保育の観察力、カンファレンスの視点を習得し、2年次と3年次で幼稚園での「教育実習（幼稚園Ⅰ・Ⅱ）」を履修する。この教育実習の事前事後学修は、通常は1単位で開設されることが多いが、より実践での学びを理解し、次の実習への主体的な実習計画の立案を学生自ら行えるように2単位開設した。

以上のように、幼児教育学科の教育課程は、幼稚園教諭一種免許の取得に必要な専門的知識の学修に相応しく、これまでの幼稚園教諭養成での高い実績を継承・発展させるために、本学科に当該教員養成課程の設置を申請する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

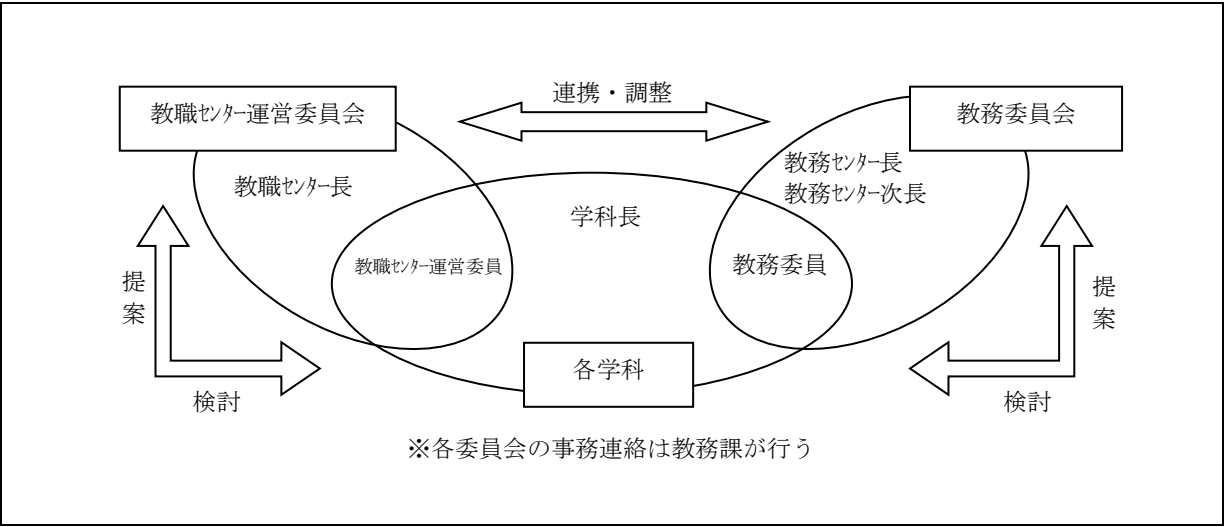
①

組織名称：	教職センター運営委員会
目 的：	教職課程の基本方針及び教育課程に関する事項、教育実習・介護等体験指導に関する事項、教員採用試験対策に関する事項について審議・検討する。
責 任 者：	教職センター長
構成員（役職・人数）：	教職センター長、教職課程を持つ学科から推薦された委員、教務センター長、教務課課長、その他学長が必要と認めた者 （計 12 名）
運営方法：	年間 3～4 回程度開催する。ただし、検討を要する課題がある場合は、必要に応じて委員会を開催する。審議される事項は、教職課程に関する動向を確認した上で、本学における教職課程の基本方針、各年度の実習や介護等体験の進め方、教員採用試験対策に関する事項や関係機関との連携がある。教職センター運営委員会の事務連絡は教務課が行う。

②

組織名称：	教務委員会
目 的：	学生の修学に関する事項、カリキュラム改革および調整に関する事項について審議する。
責 任 者：	教務センター長
構成員（役職・人数）：	教務センター長、教務センター次長、各学科から推薦された委員、教務課課長 （計 19 名）
運営方法：	年間 5～6 回程度開催する。ただし、検討を要する課題がある場合は、必要に応じて委員会を開催する。審議される事項は、各年度の教育課程や開講科目の検討と調整、シラバスの充実化、その他、学生の学修に関する諸事項についてである。教務委員会の事務連絡は教務課が行う。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

- ・名 称：教職課程研究協議会
- ・開催場所：本学
- ・開催頻度：年1回（10月または11月）開催
- ・出席者：広島県教育委員会（広島県立教育センター所長、広島県教育委員会教職員課長、義務教育指導課長）、広島市教育委員会（広島市教育センター所長、広島市教育委員会学校教育指導担当部長、指導第一課長、指導第二課長、教職員課長）、広島県連合小学校長会会長、広島県公立中学校校長会会長、広島県公立高等学校校長会会長、本学関係者（学長、学長補佐、教職センター長、教務センター長、教職センター運営委員、学部長、学科長、事務局長、事務局次長、教務課長）
- ・取組内容：教育の諸問題、教育カリキュラム等の検討、実習等の実施に関わる問題、関係機関との連携のあり方について研究協議を行う。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	学校等支援活動（広島市教育委員会・廿日市市教育委員会との連携による）
連携先との調整方法：	・学生が広島市教育委員会ホームページに掲載される活動先一覧や、廿日市市教育委員から大学に送付される活動一覧から活動先を選び、活動希望先に面談のアポイントをとる。（同一学校（園）に複数希望者がいる場合、学生の中から代表者を決め、代表者が活動希望先に面談のアポイントをとる）。 ・活動希望先に希望人数を伝え、面談時に活動日等の詳細を確認する。受入れが難しい場合は、所属学科にて活動先を変更、日程を変更する等、調整を行う。
具体的な内容：	幼稚園・・・遊びの指導補助、行事に係わる補助、保育に係わる補助など 小・中学校・・・教科等の指導補助、学級担任の補助、放課後学習支援、図書の読み聞かせなど

Ⅲ. 教職指導の状況

本学では、1年次から教職課程のガイダンスを実施し、教職センター運営委員、教務委員、教職センター（窓口：教務課）が履修指導、履修相談に対応している。

学科において、教育実習に関する情報収集のための資料閲覧コーナーの設置、教育実習報告会の実施、就職指導として、教職課外講座や教員採用試験のための補講、教員採用試験合格者や卒業生の体験談を聞く会等を実施している。

教職センター（窓口：教務課）では、教員採用試験制度説明会の実施、教員養成に関する雑誌・図書の閲覧・貸出、公立学校採用試験の過去問題集などの閲覧・貸出等を行っている。

キャリアセンター（窓口：キャリア支援課）では、幼保就職ガイダンスを実施し、就職支援を行っている。

様式第7号ウ

＜幼児教育学科＞（認定課程：幼一種免）

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育科目において教養を広げる学習をすることで人間理解や社会理解、自然理解に関わる基礎的知識を習得する。また、専門教育科目において教育学や心理学の基礎的理解に関する原理的な知見を身につけるとともに保育実践に向けての関心・意欲を高める。さらに領域の実践的なあり方の基礎的な学習を行うことで、保育者としての基礎的資質を養う。
	後期	前期に続いて共通教育科目において教養を広げる学習をすることで人間理解や社会理解、自然理解に関わる基礎的知識を習得する。また、専門科目において保育学に関する基礎的理解に関する原理的な知見を身につけるとともに、保育領域の専門的領域に関する基礎的な知識を修得する。保育現場での参与観察における学びの経験もふまえ、幼児教育における教職の意義や使命、専門性について理解を深める。
2年次	前期	教育実習における実践的な学びと大学での理論的な学びとの往還的な学びを通して、幼児教育におけるカリキュラムや指導計画に関する基礎的知識を習得する。幼児理解を深めるとともに、幼稚園教育の教育課程の意義を理解し、指導計画を作成する基礎的な知見を修得することを通して、多様な子どもに対する幼児教育のあり方や求められる倫理のあり方に関心を持つ保育者としての基礎的資質を身につける。
	後期	教育の基礎的理解に関する科目や保育内容の指導法に関する科目の専門的な学びを通して、幼児理解を深め、幼児教育の基礎について学習することで、幼児教育・保育の専門性を身につける。より実践的な模擬保育等での学びを通して幼児の活動の展開と評価及び指導計画の理解を深め、保育実践力の基盤を身につける。3年次の教育実習に向けて自己のあり方を見つめ、主体的に実習に向かう態度を形成する。
3年次	前期	専門科目での学びを通して教職専門の構造的な理解を深め、特別なニーズがある子どもたちへの指導や配慮に関する教育的知識・技術を習得する。さらに幼児教育の専門教育科目では、保育の方法について具体的な実践やエピソードを通して理解する。保育者の専門性と実践的力量の形成について反省的な学習を行うことができるように「学び続ける」保育者の基盤を形成する。
	後期	これまで学んできた教職関係の科目や保育内容の指導法や領域に関する専門的事項に関する学びを学生自身が体系的に振り返り、総合的な保育の指導について理解を深める。とともに、学外の幼稚園等での教育実習を通して、保育者としての実践を広く経験し、実践的力量の形成を図るとともに教職のキャリア形成のための学修課題を把握する。また、卒業研究に向けて教育に関わる内容について専門的に研究する基礎を修得する。
4年次	前期	3年次までに学んできた教職関係の科目や保育内容の指導法や領域に関する専門的事項に関する学びを学生自身が体系的に振り返ることで、反省的实践家としての保育者の資質を身につける。また、教育関係ボランティア等で実践力を高めるとともに、卒業論文作成に向けて学術的な研究作法の基礎を身につける。
	後期	4年間に体系的に身につけてきた専門科目の履修及び教育実習等によって修得した教職の専門的知識・技能と実践的力量を自ら整理・活用することにより、教職への倫理感を高める。卒業論文の作成と発表を通して、学術的に自ら問題を設定し解決することのできる「学び続ける」保育者の基礎を身につけるとともに、研究倫理を備えた誠実な保育者の資質を形成する。

様式第7号ウ（教諭）

<幼児教育学科>（認定課程：幼一種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		保育内容の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	領域に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論		運動遊びの基礎	21世紀の社会と法A（日本国憲法）	幼児教育インターンシップⅠ
		教育原論		音楽表現の基礎	健康スポーツA	
		幼児教育学		造形表現の基礎	英語コミュニケーションⅠ	
		発達心理学Ⅰ		身体表現の基礎	情報処理基礎Ⅰ	
					情報処理基礎Ⅱ	
	後期	保育者論	子どもと健康		からだの科学A	幼児教育インターンシップⅡ
			子どもと人間関係		英語コミュニケーションⅡ	
			子どもと言葉			
2年次	前期	幼児教育課程論				幼児教育実践演習Ⅰ
		教育課程論				保育におけるケアと倫理
		教育心理学				特別ニーズ教育論
		教育実習指導Ⅰ				
		教育実習（幼稚園Ⅰ）				
	後期	保育内容総論Ⅰ				幼児教育実践演習Ⅱ
		保育内容 健康Ⅰ				
		保育内容 健康Ⅱ				
		保育内容 表現Ⅰ				
		保育内容 表現Ⅱ				
		教育方法論				
		教育実習指導Ⅰ				
		教育実習（幼稚園Ⅰ）				
3年次	前期	保育内容 人間関係Ⅰ	子どもと環境			
		保育内容 人間関係Ⅱ				
		保育内容 言葉Ⅰ				
		保育内容 言葉Ⅱ				
		教育制度論				
		特別支援教育論				
		教育相談の理論と方法				
	後期	保育内容 環境Ⅰ				
		保育内容 環境Ⅱ				
		幼児理解の理論と方法				
		教育実習指導Ⅱ				
		教育実習（幼稚園Ⅱ）				
4年次	前期	保育内容総論Ⅱ				
	後期	保育・教職実践演習（幼）				